

# 先進事例 紹介

全国最大規模の広域消防

## 安全・安心なまちづくりを目指して

北海道 とかち広域消防局

### 1 とかち広域消防局の概要

とかち広域消防局は、北海道東部に位置し、帯広市、音更町、土幌町、上土幌町、鹿追町、新得町、清水町、芽室町、中札内村、更別村、大樹町、広尾町、幕別町、池田町、豊頃町、本別町、足寄町、陸別町、浦幌町の1市16町2村で構成された十勝圏を管轄しています。

十勝圏は、東西が約100km、南北が約200kmに及ぶ地域で、秋田県や岐阜県に匹敵する広大な面積を有し、周囲を北は大雪山系、西は日高山脈、東は白糠丘陵と三方を山に囲まれ、南は太平洋に面し、「十勝平野」のほぼ中央には、一級河川「十勝川」が流れ、日本有数の畑作地帯が広がる豊かな土壌と自然環境に恵まれています。

管内19市町村は、古くから医療や経済・行政面においても深い結びつきの中で一体的に発展してきており、平成23年7月には、帯広市を中心市とする定住自立圏形成協定が管内18町村とそれぞれ締結され、地域の自立促進に向けた取組を推進しています。

管轄人口約34万5千人、面積約10,830km<sup>2</sup>に1本部19署2支署6出張所8分遣所を配置し、消防車両約150台、消防職員692人で災害に対応しており、管轄面積では国内最大の規模となっています。



日高山脈とパッチワーク状の畑

管内区域図



### 2 広域化に至る経緯

十勝には元々、一部事務組合により運営される5つの消防本部と、帯広市単独の消防本部がありました。

平成18年の「消防組織法」の改正後、各都道府県で「消防広域化推進計画」が策定されるなど、全国的に消防の広域化が推進されてきましたが、十勝ではこうした国等の動きに先行し、平成16年から消防の広域化の調査・研究を行ってきました。平成21年4月には、十勝圏の消防の広域化について、より具体的な検討を進めるため、十勝広域市町村圏の総合的な振興計画などを処理する十勝圏複合事務組合の事務局に消防広域推進室を設置し、19市町村間で更なる協議・検討を重ねてきました。

こうした中、平成25年12月に策定された「第2次北海道消防広域化推進計画」において、十勝地域を含む7地域が「消防広域化重点地域」に指定され、国及び道からの後押しを受けて、広域化に向けた準備が進められ、

平成26年3月に管内19市町村の合意のもと「十勝圏広域消防運営計画」が策定されました。

その後、全19市町村議会の議決を経て、平成27年2月にとち広域消防事務組合設立協議書の合同調印式が行われ、同年5月にとち広域消防事務組合を設立、平成28年4月1日からとち広域消防局の業務を開始しました。



とち広域消防事務組合設立協議書合同調印式

## 3 広域化の効果

### (1) 現場到着時間の短縮

高度な機能を備えた消防指令センターを整備したことにより、災害場所の特定や出動部隊編成が早くなり、通報から出動指令までの時間が短縮されました。加えて、これまでの管轄区域にとらわれず、行政区域を越えた直近署所からの出動により、現場到着までの時間短縮が可能となりました。



消防指令センター

### (2) 消防体制の強化

1つの消防本部が保有する部隊数が増えることで、通報段階から必要な規模の部隊編成が可能となり、初動時における出動部隊数が増強されるとともに、被害の拡大や活動の長期化に対応する2次出動体制が充実するなど、災害対応力が強化されました。

### (3) 財政負担の軽減

消防指令センター及び消防救急デジタル無線を共同整備したことで、整備費用を削減することができました。また、本部組織の統合や通信指令業務の一元化により、本部事務の効率化や消防署の事務負担軽減につながりました。



とち広域消防局庁舎

## 4 おわりに

近年、大規模、複雑化する災害、高齢化社会の到来による救急需要の増大、専門化する火災予防への対応が求められるなど、消防を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした社会環境の変化に対応し、将来にわたり地域住民の皆様の安全、安心をしっかりと守れるよう、今後とも十勝19市町村が連携を図りながら、広域化のスケールメリットを最大限に発揮し、消防力の充実強化に努めてまいります。